

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

遺伝子ネットワーク解析を利用した アルツハイマー病発症機序の解明

アルツハイマー病研究部

飯島 浩一 部長

2019年12月12日(木) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

老年性認知症の最大の原因であるアルツハイマー病（AD）を制圧するには、発症リスクを軽減させる予防法、発症前に介入する先制医療、さらに発症後も症状の進行を遅らせる治療法を開発する必要がある。その達成には、未知の危険因子、高感度なバイオマーカー、さらに新たな治療薬標的を網羅的に同定していくことが重要になる。しかし、その根幹にあるADの発症機序には未だ不明な点が多い。この現状を打破するため、脳病理像や既知のリスク遺伝子に着目した仮説駆動型研究に加えて、患者由来の大規模データから全く新たな仮説を生み出すデータ駆動型研究が注目を集めている。本報告会では、当研究部が国内・国外の研究者と連携して推進する、遺伝子ネットワーク解析を利用したAD発症機序の解明について紹介する。さらに、反応性グリア細胞に着目したADの新規病態マーカーや治療薬開発の可能性について議論したい。